

MRI検査を受けられる患者さまへ

I. MRI検査とは

強い磁力と電波を用いて体の内部を断面像として検査する方法です。いろいろな角度から断面像を撮影することができ、頭部や脊椎、関節疾患の画像診断に必要不可欠な検査です。

II. 当院のMRI装置の特徴

開口部が楕円形に拡張され、圧迫感も少なく、側臥位での検査も可能な広さです。また、高機能アプリケーションが搭載されており、最新技術の静音化により、"画像性能"と"検査環境の快適性"ともに高い装置です。

III. 検査時間について

検査する体の部位と撮影目的により異なりますが、**約15分～60分程度**です。

例) ・頭部：約15分 ・脊椎(腰椎)：約20分 ・膝関節：約20分 ・造影検査：約60分

IV. MRI検査を受けるときの注意事項

MRI検査で用いる磁力や電波は、人体への影響はありません。ただし、次のような患者様は検査を受けられないことがありますので、医師・看護師または、検査担当技師にあらかじめお知らせください

注 I / 禁忌事項(検査が出来ない方)

- i. **心臓ペースメーカー・埋め込み型除細動器(ICD)**を装着している。
- ii. **可変圧式バルブシャント(脳室シャント、V-Pシャント)**を埋め込んでいる。
- iii. **人工内耳や神経刺激装置などの体内電子装置**を装着している。
- iv. **脊髄刺激装置、脊椎管内リード線**を埋め込んでいる。
- v. **妊娠、あるいは妊娠している可能性**がある。

注Ⅱ／医師の確認が必要な事項

- i. 脳動脈クリップ、消化管出血の止血クリップがある。（脳外科、消化器外科の手術）
- ii. 心臓や血管内に金属類・人工物を使用している。（心臓外科、血管外科の手術）
（人工心臓弁・ステント・コイル・人工血管・フィルターなど）
- iii. 脊椎固定具や人工関節、人工骨頭が体内にある。（整形外科の手術）
- iv. 以前、何らかの手術を受けたことがある。
- v. 常に貼り薬を貼っている。
- vi. 刺青（タトゥー）、避妊リングをいれている。
- vii. 狭い場所が苦手である、大きな音に敏感である。（閉所恐怖症などの）
- viii. 以下の金属や人工的なものを身につけている。
 - 磁石を利用した義歯 ○歯列矯正器具 ○かつら ○義眼
 - 義手足 ○体内置き針

V. MRI検査前の準備

- ✓ 更衣室がありますので、必要時は準備してある検査着に着替えてから、入室していただきます。
- ✓ 下記のは装置が故障する恐れがあり、画像検査に支障を及ぼすことがありますので、検査前に取り外し、検査室内には持ち込まないようにして下さい。
 - ◎ 金属類……入れ歯・時計・眼鏡・鍵・安全ピン・ホチキスの針・小銭・ライター
カラーコンタクトレンズ・ヘアピン・アクセサリー（ネックレス、ピアス）など
 - ◎ カード類…キャッシュカード・クレジットカードなどの磁気カード類など
 - ◎ その他……補聴器・携帯電話・金属が付いた下着類・置き針（体外）・カイロ・エレキバン等

✓ インナーについて

ヒートテック、ボディヒーター、あたたかインナーなど発熱作用の優れたインナーは、検査中に高温となり、やけどしてしまう事例が報告されていますので、検査時は脱いでいただきます。

✓ 化粧品について

アイシャドーやマスカラなどの中には、金属を含んでいるものがあります。やけどや検査に障害をきたす原因となります。メイク落とし等の準備はしておりますが、当日は化粧せずに来院して下さい。

vi. 検査中のお願い

- ◇ 撮影時間が長いため、体が動くと画像がブレてしまいます。検査中は動かないでください。
- ◇ 検査中は装置から連続的に大きな音が聞こえます。物理的に発生してしまう音ですのでご了承下さい。
- ◇ 検査室内を確認するカメラもあり、声も聞こえますので連絡を取ることができます。また、検査中は非常時を知らせるブザーボタンをお渡しします。気分が悪くなったりした際は、お知らせ下さい。

VII. 造影MRI検査を受けられる患者様へ

より詳しい検査を行うために「造影剤：ガドリニウム製剤」を静脈から注射する場合があります。造影剤は、血液の豊富な組織に分布し、その分布により診断を行います。造影剤は、ほとんどが1日以内に尿中に排泄されますが、腎機能が低下している場合、排泄が遅くなるだけでなく腎機能が低下する恐れがあります。

造影剤は、副作用の少ない薬剤ですが、人によっては次のような副作用が出る場合があります。

- 軽度…かゆみ・発疹・吐き気・嘔吐・頭痛・胃の不快感など（特に治療を必要としません。）
- 中等度…息切れ・動悸・不整脈など（経過観察が必要で、場合によっては治療が必要です。）

➤ 重篤…アナフラキシーショック・呼吸困難・意識消失・腎不全・血圧低下など

(治療が必要で、後遺症がのこる可能性があります。)

➤ 入院処置が必要な場合があり、約 80 万人中 1 人の死亡報告があります。

